

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 はなみずき)

事業所番号	0672300431		
法人名	オーリンク株式会社		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	山形県西村山郡朝日町大字宮宿320番地の6		
自己評価作成日	令和 2年10月 5日	開設年月日	平成18年 3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアに取り組んでおり、「その人らしさ」を大切に、ご自分でできる事を生きがいとして生活されることを支援している。
 外出、流しそうめんや芋煮会等の季節に合わせた行事を行ない、ご利用者が生き生きと楽しめるような雰囲気作りを行なっている。
 ホームの畑で野菜を作り、収穫して新鮮な食材を提供している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3-10		
訪問調査日	令和 2年11月26日	評価結果決定日	令和 2年12月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念「その人らしさを大切に」「ゆったり楽しく」「地域社会の一員として」を基に、一人ひとりの生活を大切に支援している事業所である。特に現在は、「その人らしさを大切に」が職員全員の共通意識となっている。介護計画の検討の際だけでなく、一人ひとりが出来ること・出来ないことを暮らしの中で確認しながら、出来ることを継続して生活するための支援に努めている。また、コロナ禍で面会外出等の機会が制限される中でも、流しそうめんや車中ドライブなど、外出機会を多くするための行事を工夫して、「楽しく」暮らせる支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、意識と実践につなげるようにしている。	理念を事務所に掲示するとともに、社内研修の際に唱和して、全員が「その人らしさを大切に」「ゆったり楽しく」「地域社会の一員として」を振り返っている。管理者は、特に、「その人らしさを大切に」を話し合いの場のテーマとしながら、さらなる理念の実現に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症対策で地域や事業所の行事が中止となっているため、交流が出来なくなっているが、地域の方々が野菜や花等を届けてくださり、これまで同様に交流している面もある。	「地域に愛される施設」として理念に掲げて交流を大切にしているが、コロナ禍で、例年通りの活動ができていない。例年では行事に地域の方を招待したり、催しに参加したり交流していた。そうした状況の中でも近隣の住民とは畑作業の手伝いなど変わらぬ日常的な交流がみられる。現在は休止しているが、事業所の広報紙を配布する計画が進められている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や中学生の職場体験等で理解や支援の方法を伝えている。今年の運営推進会議はコロナウイルス感染症対策のため、書面での報告になっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症対策のため、会議は開催していないが、書面等で理解を得られるよう伝えている。	今年はコロナの影響で会合を控え、書面の送付と意見聴取をもって運営推進会議としている。委員は役場職員・区長・民生委員、家族代表等で2ヶ月に1回開催されている。書面には、利用者の生活状況に加え、ヒヤリハット・事故状況も含まれ、運営・生活の全般に及んでいる。また、認知症に対する地域の理解促進等についても意見が交換されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>コロナウイルス感染症対策のため、会議は開催していないが、報告や相談等で協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議に役場職員の出席があり、その際、運営状況や課題を詳しく報告している。また、常日頃から電話や訪問で相談及び情報交換を行い、協力関係を築くよう努めている。</p>		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>利用者様の状況や他利用者様に対応中等で手が離せない場合は、やむを得ず一時的に人感センサーを使用したり、施錠することがある。身体拘束をせずに過ごせるよう工夫しているが、転倒のリスクが高い方には、家族様の同意を得て、離床センサーを使用している。</p>	<p>今年度は内部研修で、禁止行為の内容や対応方法について、全職員で学んでいる。危険につながる行為を引き起こす利用者に対しては、検討委員会で話し合っ、センサーを使用したり、また、帰宅を思い出す利用者に対しては、声掛け・見守り・寄り添いの具体策を十分に確認し合いながら、安全を確保するように工夫している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職場内研修等で学ぶ場を設け、日々注意・防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>今年度は実施していないが、今後学ぶ機会を設けていく。現在、成年後見制度を利用している方がおり、弁護士が年に数回面会に来ている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居・契約の際は具体的に説明し、利用者様や家族様の要望を伺い、サービス実施に努めている。解約・改定の際も同様に説明を行い、理解を得ている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染症対策のため、家族懇談会は開催されていないが、面会や電話を通して意見交換や要望を伺っている。また、玄関に意見箱を設置し、いただいた意見を運営に反映している。	昨年までは、家族懇談会、行事等で家族へ積極的に話しかけるよう心掛け、希望や意見を把握していたが、今年は家族懇談会を開催できないので、家族と接触できる面会や受診後の報告、毎月の生活と健康についての「お便り」の機会を大切にして、意見や要望を伺っている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回、施設長との面談を行い、職員の意見や提案を話す機会がある。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績等を評価して欲しい。職員不足のため、人材の確保をお願いしたい。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナウイルス感染症対策のため、外部研修には参加できていないが、内部研修は毎月行なっている。	毎年研修計画を作成し、内部研修と外部派遣研修及びその伝達研修で職員のスキルアップを図っているが、今年度は月例会議に合わせた内部研修のみである。代表者等は年二回職員の自己評価を基に、一人一人の力量とケアの実際を把握し、評価指導することで職員の質の向上につなげている。また、外部研修や資格取得の希望を把握し支援している。また、OJTによる研修を大切にし、先輩職員の指導の下、現場で効果的なトレーニングを受けている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナウイルス感染症対策のため、実現できていない。	例年は、県グループホーム連絡協議会の研修や交換実習に参加させ、管理者、職員ごとに、情報交換や人的なネットワークづくりを促している。そして、その成果をサービスの向上に活かしている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の情報をできるだけ把握・共有し、安心して生活が送れるよう、環境作り・関係作りに努めている。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人とご家族から不安なこと、生活リズムや性格・趣味、特に配慮が必要なこと、要望等を伺い、関係作りに努めている。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族から伺ったことを基にユニット内で共有し、何が必要なのかを見極め、支援ができるように努めている。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のその時の感情や状態を見極め、家事等のできる事は協力していただき、感謝の気持ちを伝え、支え合う関係を築いている。			
19	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で日常生活の様子をご家族に伝え、一緒に考え、ご本人を支えていく関係を築いている。			
20	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症対策をした上で面会を行ったり、以前から利用されていた美容院等を継続して利用できるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションをとれるように職員が仲介したり、レクリエーションを行い、交流が図れるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も外で会った際にはお声がけし、挨拶している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング等で利用者様から個別に話を聞き、希望や意向に沿うように努めている。意思表示が困難な方は、家族様と相談しながら支援している。	理念の「その人らしさを大切に」を実現するため、利用者の思いや意向把握を特に大切にしている。発言等を「ケア記録」に詳しく記載しながら、会議等で利用者のつぶやきや家族のアドバイスなどを含めて総合的に検討し、希望・意向を十分に汲み取るように努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報収集し、できるだけ自宅と同じように安心して生活が送れるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、一人ひとりの過ごし方や体調を把握し、できることを発揮していただけるよう、支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人、ご家族に意向等を伺い、定期的にユニット会議で話し合って介護計画を作成している。</p>	<p>特に必要な場合は別にして、モニタリングは3か月に1回、介護計画の見直しは6ヶ月に1回作成実施されている。「その人らしく」生活できるように、できること・やりたいことがいつまでもできるように維持することを中心に、利用者や家族の意向を確認し、職員の意見を出し合いながら、現状に即した計画に仕上げている。計画書は、利用者や家族の意見が生言葉で記載されるなど、分かりやすい。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子や変化等をケア記録に記入したり、申し送りノートや口頭で伝達し、常に情報が共有できるようにしている。</p>			
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナウイルス感染症対策のため、今年は交流を行っていないが、美容室は対策を行った上で利用している。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人やご家族の希望がかかりつけ医受診を継続できるように努めており、受診時は必ず報告している。ご家族が受診対応をしていただく際は、日頃の状況や相談内容を記載した受診時連絡表をお渡しし、適切な診療が受けられるようにしている。</p>	<p>家族又は職員の付き添いで、利用者・家族が希望するかかりつけ医の受診を継続している。受診時は受診時連絡表を持参し、生活健康情報を適切に提供し、その連絡表に診断結果を書いてくれる医師もいる。受診後は必ず電話や「お便り」で報告し、そして「記録」に記載し、医療機関、家族、事業所で情報を共有している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員に利用者様一人ひとりの状態を伝え、相談し、処置をしてもらっている。また、急変時には電話で相談・指示を仰いだり、ホームに来てもらっている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時はホームでの生活状況を伝え、入院中は面会や電話等で状態を確認し、退院時は病状や留意点について情報交換をし、協力関係を構築している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時契約の際、重度化した場合や終末期にホームができる事を伝え、意向を伺っている。状態の変化に伴い、ご家族や医療機関と定期・不定期に相談を行なうことにしている。</p>	<p>重度化等への対応については、入居時に、事業所としてできること・できないことを詳しく説明している。病態に変化があった場合には、主治医・家族・事業所で早期に話し合い、方針を繰り返し検討確認し、情報共有しながら対応している。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急マニュアルに沿っての職場内研修や救急救命士からの心肺蘇生・AED使用法の訓練を年一回受講し、急変時や事故発生時に備えている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年二回、避難訓練を行っている。また、災害に備えての食材や飲料水を備蓄している。</p>	<p>年に2回、今年は立ち合い協力を行わなかったが、例年であれば1回は消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。地域の方へは回覧板で訓練の周知や運営推進会議委員からの協力もお願いしている。訓練では、避難場所・避難経路を確認したり、機器の習熟を図っている。食料の備蓄や防災グッズの整備も行っている。水害については、地域の老人福祉施設との協力などを考えている。</p>		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけを行っているが、忙しさや他の利用者様の対応をしているとできていない時もある。	今年、内部で接遇の研修会を行い、特に言葉遣いについて話し合いをしている。利用者は人生の先輩であり、声の大きさ、「お願いできますか」という依頼、選択を促す声掛け方法など、具体的な言葉遣いについて確認している。プライバシーの尊重についても、お互いに確認し合うように努めている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を伺い、できるだけ自己決定ができるように働きかけている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしているが、職員体制により、入浴日等で希望に添えない時がある。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で納得のいくように整容されている。介助が必要な方は、職員が身だしなみに気を配っている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れて、メニューを組み立てている。食事の準備や片づけを一緒に行なっている。	メニューは多彩である。そして夕食は、利用者の希望を聞きながら当日の職員が作成している。3食とも事業所での手作りで、職員と利用者が協力して作り、後片付けも行い、同じ食卓で食事を楽しんでいる。自家菜園の野菜や地元商店で買い物した新鮮な食材を使用して季節感を出している。また、ぼた餅、行事食など、変化をつけながら楽しい食事時間となるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態や栄養バランスで提供している。個人の食事量や水分量を把握し、パターンシートに記録している。ただし、栄養士がないため、量やバランスについて確保されているか不明である。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。就寝前、義歯は洗浄剤を使用して消毒を行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりのパターンを把握し、声かけ誘導をしている。パットの処理や交換が一人でもできる方については、ご自分でできるように手元に準備をしている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを確認し合いながら、表情や仕草から読み取り、適時声掛けとさりげない誘導によって、トイレで排泄できるように支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	皆様が整腸剤を服用している。排泄状況に合わせて調整を行なっている。水分を多めに摂っていたり、乳製品を取り入れたりして工夫している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に応じた希望やタイミングで入浴していただいている。ただし、職員体制によっては、職員の都合となる場合もある。	利用者の希望を踏まえて入浴を促し、最低週2回は入浴できるように支援している。入浴を好まない利用者に対しては、声掛けを工夫したりして清潔を確保している。例えば特産のリンゴやゆずを浮かべた変わり湯など入浴を楽しめるよう工夫している。機械浴槽も備えており、利用者の身体状況に合わせて、安全・安心な入浴の提供ができています。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて、自由にゆっくりと居室で休んでいただいている。室内温度に配慮し、安眠できるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を職員が把握している。服薬時は2人で確認し、飲み終えるまで見守りしている。症状に変化があった時は、医師へ伝えている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウイルス感染症対策のため、外出はできていないが、みんなで楽しめるレクリエーションを行って支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症対策のため、外出は行えていない。近所を散歩したり、近隣をドライブする程度にとどまっている。	従来、立地環境を生かしながら、敷地内での日光浴、いも煮会などの行事のほか、周辺の散歩、商店街での買い物、地域行事への参加、ドライブ等で外出機会を多く確保していたが、今年は、敷地内散歩、菜園手入れ、芋煮会・流しそうめん等の行事、車中ドライブなどの機会に限られている。コロナ禍の中でも、流しそうめんや車中ドライブで外気に触れ、楽しむ機会を作るように努力している。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理する事が難しいため、職員が行っている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎがある場合は対応している。家族様に年賀状を出される際には、はがきを準備したり、書き方の支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節に応じた貼り絵を飾っている。定期的に換気を行ない、共用部には除菌脱臭器を設置し、居心地の良い空間となるようにしている。	居間は明るく、適切な温度と湿度の管理が行われ、利用者が快適に過ごせるよう配慮されている。掃除もなされ、清潔感がある。壁面には季節感のある貼り絵など手作りの作品が展示されている。テーブルやソファでは、利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、くつろげる空間を作っている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面を考慮した馴染みの物を準備し、安心して使用できるように環境を整えている。	その人らしく過ごし、できることを継続できるようにするため、テレビやラジオ、衣装ケースなど馴染みの調度品や家族の写真等を持ち込んで貰い、安心して居心地よく過ごしてもらっている。温度湿度、清掃にも配慮されている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介助無しでも行動ができるような動線確保等、環境に工夫をしている。見守りを重視し、必要時にはお手伝いするようにしている。			